

平成28年第3回羽村市議会（定例会） 一般質問通告項目一覧表

発言順	議席番号	議員氏名	質問項目	質問日
1人目	5番	中嶋 勝 (60分)	<p>1. 安心できる地域包括ケアシステムへ</p> <p>(1)介護サービスを進める中での現状と今後10年間の推計を伺う。 ①高齢化率と介護認定者数はどうか。 ②認知症件数はどうか。 ③全体の相談件数はどうか。</p> <p>(2)地域包括支援センターでは超高齢社会に突入する中で、さらなる体制の充実が必要と思うが、対策を伺う。</p> <p>(3)地域住民が近くで安心して相談できる体制の構築に向けて、市内の社会福祉法人等と連携協力していく体制を検討してはどうか。</p> <p>(4)認知症における見守り支援と行方不明時における対策はどうなっているか。</p> <p>(5)無理のない予防で維持改善へつなげる介護予防。年々充実を図ってきているが、さらに多くの高齢者が気軽に取り組める施策も必要ではないか。</p> <p>(6)地域包括ケアシステムの構築には、広域的な取り組みは重要な課題である。 ①西多摩地域広域行政圏協議会の中では、どういう位置づけで取り組んでいるのか伺う。 ②広域連携に対し、市としての考えを伺うとともに、協議会へさらに強く働きかけていくべきではないか。</p> <p>2. 新たな財源の確保を</p> <p>(1)過去数年の、市に寄せられた寄付金の状況を伺う。そのうち、ふるさと納税としてはいくらか。</p> <p>(2)市のふるさと納税に対する考え方や取組み方針を伺う。</p> <p>(3)新たな財源の確保として ①何に使うのかを明確に示した方法での使用目的別寄付の考えは。 ②民間資金調達の一つでもあるクラウドファンディングの活用は。 ③公共施設等に名称を付与する権利を得るネーミングライツの活用は。</p> <p>(4)企業名を公表することで、物品等提供してくれるスポンサーになってもらう協賛事業をさらに推進する考えは。</p> <p>(5)社会貢献活動として助成金を提供している大手企業や公益法人等がある。目的に合う事業の実施でこれら民間の助成金活用も視野に入れてはどうか。</p>	9月6日

2 人目

8 番

大塚 あかね
(60 分)

(6) 公共施設等総合管理計画に基づき、市有財産の処分や有償での貸与等、有効的な活用を積極的に行うことで新たな財源の確保を望むが、具体的な方策は。

3. さらなる平和思想の普及を

(1) 戦争の愚かさ、核の悲惨さと平和思想を市民へ啓発する「平和の企画展」について

① 本年は図書館での開催で縮小された感が否めないが、どう総括しているか。

② 近隣自治体とも連携して、新たな資料の展示や展示期間を長くする等、充実させてはどうか。

(2) ピースメッセンジャーとなる「中学生広島派遣事業」について

① 参加者の感想はどうだったか。

② 今後も継続していくべき大切な事業と捉えるが、今後の予定とさらなる充実を望む。

③ 多くの方々が、ピースメッセンジャーの経験を将来にわたって保ち続けてもらいたいと願っていると思う。平和思想の普及のためにも、参加者が交流できる機会を設け、互いに啓発できるようピースメッセンジャーグループ(仮称)の結成を検討してはどうか。

④ 今後、派遣事業のグループリーダーや成人式で発表するなど、ピースメッセンジャーの経験を活かし発信する機会を設けてはどうか。

1. 安心して暮らすことができるために成年後見制度の活用を！(高齢者編)

(1) 介護保険事業における成年後見制度の取組みについて

① 地域包括支援センターでの周知、取組みはどのように行われているか。

② 介護保険の契約を目的とする成年後見申し立て件数を把握しているか。

③ 介護保険事業者から「後見人をつけてほしい」と要望された場合、どのように対応しているのか。

④ 介護保険の地域支援事業の任意事業に成年後見制度利用支援事業を取り入れていく考えはあるのか。

(2) 消費者被害から高齢者を守るための成年後見制度の周知、利用促進について

① 国民生活センターが提唱している、消費者被害から身を守る秘訣「さいふをまもる」の周知は図られているのか。

② 悪質商法の未然防止、救済に成年後見制度が有効であることを積極的に周知するべきではないのか。

9 月 6 日

- (3) 成年後見制度推進機関について
- ① 来年度、社会福祉協議会に委託する計画となっているが、現在の進ちょく状況は。
 - ② 推進機関の体制、委託する内容について伺う。
 - ア 体制について
 - イ 法人後見人として役割を担うのか。
 - ③ 羽村市からの財政的支援について
 - ④ 地域の関係機関、団体との連携体制について
 - ア 地域包括支援センター
 - イ 羽村市三師会
 - ウ 民生・児童委員
 - エ 町内会・自治会
 - オ 金融機関

(4) 成年後見制度の利用の促進を今後、どのように進めていくのか。

- ① 「成年後見制度の利用の促進に関する法律(平成28年5月13日施行)」第5条(地方公共団体の責務)、第7条(国民の努力)、第23条(市町村の講ずる措置)への対応を今後どのように進めていくのか。
- ② 市民後見人の育成及び活用についての考えは。

2. 若者の政治参加促進について

(1) 参議院議員選挙、東京都知事選挙における若者の投票行動について

- ① それぞれの選挙における18歳、19歳、20歳の投票率について伺う。
- ② ①を踏まえ、若い世代の投票行動についての課題は。
- ③ 若い世代の投票率を上げていくための、これからの取組みについて伺う。

(2) 主権者教育について

- ① 東京都選挙管理委員会が都内中学校の3年生向けに配布した選挙学習用冊子「Let'sすたでい選挙」はどのように活用されているのか。
- ② 総務省と文部科学省が連携して、全国の高校生に配布した副教材「私たちが拓く日本の未来」の活用状況を把握しているか。
- ③ 文部科学省が本年6月13日に示した「主権者教育の推進プロジェクト」を羽村市教育委員会ではどのように進めていくのか。
 - ア 幼稚園等
 - イ 小学校・中学校
 - ウ 家庭・地域

(3) 若者の政治参加を今後どのように促していくか。

1. 羽村市シティプロモーションの実効性を高める着実な取組みを

- (1) シティプロモーションに取り組んでいる他市の状況とその概要について
- (2) 羽村市のシティプロモーションについて
- ① 基本的考え方を含めた基本方針は構築されているか。
 - ② シティプロモーションの進め方は。
- (3) 平成28年度事業の取組みについて具体的内容を伺う。
- ① 「羽村らしさ」を意識した良好な都市イメージを表現にした「羽村市ブランド・キャッチコピー」の構築への方策は。また先行して構築されている他の自治体の例は。
 - ② 「羽村市の魅力発信」について、予定されている具体的方策とスケジュールは。
- (4) フィルムコミッションは、観光振興、魅力発信、認知度の向上に大きな役割を果たすと考えるが、現在の市の取組み状況はいまだ受動的ではないか。羽村市には「羽村堰」「玉川上水」「玉川兄弟」という大きな観光資源がある。能動的対応として、この貴重な資源をテーマにしたドラマ、映画化を進めてはいかがか。

2. 生きがいを持ち安心な生活ができる高齢者のための地域社会を目指して

- (1) シルバー人材センターは、高齢者が生きがいを持てる働く場の斡旋・提供とともに、近年多様化している雇用状況、社会ニーズに対応するなど、その役割の重要性が高まってきている。シルバー人材センターを取り巻く変化とともに以下伺う。
- ① シルバー人材センターの年代別月平均の登録者数、就労者数とその割合は。また、ここ3年の変化と課題は。
 - ② シルバー人材センターの就労者の月平均の報酬額は。上限、下限等の基準は。
 - ③ どういった職種のニーズが高いのか。単純労務と事務管理系に分け、ここ3年で変化はあるか。
 - ④ 受注業務のうち、公的な業務と民間業務の割合は。また、ここ3年の変化と課題は。
 - ⑤ シルバー人材センターでは、社会ニーズに即応しきめ細かく業務を拡大している。最近取り入れた派遣業務について、市はどのように捉えているか。また市民への周知を支援すべきと思うがいかがか。
 - ⑥ 健康寿命の延伸とともに、自己実現を果たしたいとする団塊の世代の高齢者のために、また、生活の安定のためにも、シルバー人材センターの求人の一層の確保等、雇用の推進を支援すべきと考えるがいかがか。

4 人目

1 番

高 田 和 登
(60 分)

- (2) 自助・共助・公助による新たな支え合いのシステムの構築を図るために
- ① 地域包括ケアシステムの構築に向けた具体的な今後の取組みは。
 - ② ひとり暮らし高齢者の増加に伴う見守り支援の今後の方向性は。
- (3) 地域福祉の要（かなめ）ともいえる民生・児童委員の体制について
- ① 現在の定員数と委嘱している委員数は。
 - ② 今後の高齢化に対応して増員していく考えはあるか。
 - ③ 民生・児童委員に係る課題をどう捉えているのか。

3. 子どもたちの学力向上への取組み

- (1) 平成 27 年度から、羽村市は東京都から「学力ステップアップ推進地域」の指定を受け、27 年度から 29 年度までの 3 年間、算数・数学を重点科目としている。その取組み状況や今後の方向性について何う。
- ① 東京都が示す「学力ステップアップ推進地域指定事業」の目的は何か。
 - ② 羽村市では現在どんな取組みをしているか。
 - ③ 取組みの成果として、どのように向上、改善できたか。そこから見えてきた課題は何か。
 - ④ 都の推進地域指定は 3 年間であり、平成 29 年度で終了だが、平成 30 年からの見通しは。
- (2) 学力向上には「意欲の助長」「興味を持たせる」「好きになる」などが挙げられる。このようなファクターについて「学力ステップアップ推進委員会」等で話題になっているか。

1. 羽村市の水道水と「水はむら」について

- (1) 羽村市の水道水の料金について
- ① 羽村市、東京都、昭島市、武蔵野市との下水道料金も含めた水道料金の比較を問う。
 - ② 羽村市の水道使用量の最近 5 年間の推移を問う。
- (2) 羽村市の水道水の「おいしさ」の PR について
- ① 平成 27 年度市政世論調査でも「おいしい」の回答が 91.2% ある。この点をもっと PR して、羽村市の子育て世代の定住を促進すべきと考えるが、いかがか。
 - ② 「たまごクラブ」「ひよこクラブ」に掲載予定の羽村市の広告に、羽村市の水道水の「おいしさ」を掲載すべきと考えるが、いかがか。
 - ③ 恒例となった羽村市の公共施設見学会において、「水」関連施設に限定した企画を実施すべきと考えるが、いかがか。

9 月 6 日

④羽村市外の子育て世代に対し、「水のおいしさ」をPRすることが、羽村市への移住を促進することになると考えるが、いかがか。

(3)水道水をPRするための「水はむら」のさらなる活用について

①2リットル容器の「水はむら」を検討したらどうか。

②「水はむら」の製造について、コストダウンを図る方法を検討すべきと考えるが、いかがか。

2. コミュニティバス「はむらん」について

(1)「はむらん」の現状分析について

①平成25年度からの運行経費、運賃収入、運行補助金を問う。

②コミュニティバスを運行している自治体は多摩26市中いくつあり、最も高い収益率の自治体と収益率を問う。

③平成24年9月～10月に利用者の乗車バス停および降車バス停、乗車目的等を把握するOD調査を実施している。その後、平成26年のダイヤ改正を踏まえ、再度のOD調査をすべきと考えるが、いかがか。

(2)「はむらん」の認知度向上について

①平成27年5月28日・29日にはむらん運行10周年を記念して運賃無料感謝デーを実施した。この2日間の利用者数は通常の利用者数よりどの程度増加したか。

②「はむらん」の無料乗車券を全世帯に配布し、利用体験を促進すべきと考えるが、いかがか。

(3)「はむらん」のダイヤについて

①「はむらん」のダイヤはどのように作成しているのか。

②市民からは増便の要請があるが、市の見解を問う。

③市民から「乗継」が不便との声があるが、市の見解を問う。

(4)「はむらん」の収益向上策について

①利用者を増やすことによる運賃収入の増加以外に、収益をあげる別の方法を検討してはどうかか。

3. 羽村市の公式キャラクター「はむりん」について

(1)「はむりん」のゆるキャラグランプリの順位向上策について

①「はむりん」がゆるキャラグランプリに参加することになった経緯とこれまでの順位を問う。

②「はむりん」のゆるキャラグランプリの順位向上策として、これまで活動してきたことと今後、活動しようとしていることを問う。

5 人目

6 番

富 永 訓 正
(60 分)

- ③羽村市の職員は、全員、「1 日 1 票プロジェクト」に参加し、1 日に 1 回、市役所のパソコンを立ち上げると同時に投票をすることは業務の一部として推奨すべきと考えるが、いかがか。
- ④市の職員で個人的にスマートフォンなどを保有している方や自宅にパソコンを所有している方は多いと思われる。強制することはできないが、勤務時間外に投票に協力していただく雰囲気を醸成することは大切だと考えるが、いかがか。
- ⑤羽村市商工会などにも協力要請をしていると思うが、さらに商工会と連携して、「はむりん」への投票をお願いすべきと考えるが、いかがか。
- ⑥市民から「ID 登録が難しそうで、投票作業も大きな負担になりそうである。」との声があった。ID 登録がそれほど難しくないことや、お気に入りなどに登録しておけば、投票行動に何秒もかからないことを、さらに周知すべきであると考え、いかがか。
- ⑦10 月 24 日の投票締め切り日まで、「広報はむら」の 9 月 15 日号、10 月 1 日号、10 月 15 日号の 3 回、投票促進記事を掲載し、羽村市民の意識向上を図るべきと考えるが、いかがか。

1. 羽村市における権利擁護について

(1) 地域福祉権利擁護事業について伺う。

- ①地域福祉権利擁護事業とは何か。その理念と目指しているものは何か。
- ②現在の体制はどのようなになっているか。
- ③近年の内容・事例別の相談件数の状況と、それぞれの制度や事業に繋がった件数を伺う。
- ④今後、権利擁護を必要とする市民ニーズにどのように応えていくのか。

(2) 成年後見制度について伺う。

- ①平成 29 年度から成年後見制度推進機関の設置・運営が計画されている。現在までの体制と、今後どのような体制となるのか伺う。
- ②都内 23 区および 26 市の中で、羽村市だけが成年後見制度推進機関が設置されていない。その理由を聞く。
- ③将来的なニーズと利用者の大幅増が想定される。どのように考え、どう対応していくか。

(3) 虐待防止について伺う。

- ①虐待防止への理念と目指しているものは何か。

9 月 6 日

6 人目

9 番

西 川 美佐保
(60 分)

- ②虐待防止に向けた今後の新たな取組みを、どのように考えているか。
- (4) 権利擁護に関する事業について
- ①今後、権利擁護に関する自治体や実施機関での事務量等の増加が見込まれる。社会福祉協議会の役割を、将来的にどのように考えているか。
- ②将来的に、さらに充実した権利擁護の必要性が想定される。自治体単独にこだわらない新たな組織や広域的な取組みが必要ではないか。
- 2. 羽村市の観光振興施策について**
- (1) 羽村市のさらなる観光振興のためには、観光協会の強化と安定した運営及び、より一層の緊密な市との連携が欠かせない。見解を聞く。
- (2) 羽村市観光協会の法人化等に向けて
- ①その意図・背景・経緯を聞く。
- ②観光協会の意向はどのようなものか。
- ③観光協会、市、それぞれの取組みはどのような状況か。
- ④市として観光協会に対し、どのような支援を考えているか。あるいは行っているか。
- ⑤法人形態と発足時期はどのようになるのか。
- (3) 羽村市観光協会の法人化等のその後について
- ①市と観光協会それぞれの役割はどのようなものか。
- ②どのようなことを目指し、どのような支援を行っていくか。
- (4) 今年度から企画総務部に、はむらの魅力発信・知名度向上、はむりん、フィルムコミッションを主たる業務とするシティプロモーション推進課が新設されたが、産業振興課及び観光協会とのそれぞれの連携をどのように考え、どのように取り組むのか、以下伺う。
- ①観光協会とシティプロモーション推進課との連携と取組み。
- ②観光協会と産業振興課との連携と取組み。
- ③シティプロモーション推進課と産業振興課との連携と取組み。

1. 多摩川と「幻の軽便鉄道の歴史」を観光へ

- (1) 軽便鉄道の経緯と歴史的価値をどのように認識しているのか。
- (2) 都民の命を支えた多摩川の水の歴史の一つである軽便鉄道の教育的価値をどのように考えているのか。
- (3) 多摩川と軽便鉄道の歴史について
- ①市史編さん室ではどのように取り組んでいるのか。

9 月 7 日

- ②郷土博物館ではどのように取り組んでいるのか。
- ③学校の副読本などには、反映されているのか。
- (4) 市民団体から要請を受け、軽便鉄道の跡地（羽村・村山導水管）を歩くコースを郷土博物館で案内したと聞いているが、どういう団体で、何人くらいが参加され、どのような支援をしたのか。
- (5) 武蔵村山市では「羽村山口軽便鉄道」の跡地が遊歩道になっているが、羽村市内でも神明緑道など一部残っている。要所に案内板等整備し、自転車やウォーキングなどで羽村から武蔵村山市までの跡地を行き来できるコースを考えてはどうか。
- (6) 平成 10 年に「軽便鉄道」をテレビはむらで取り上げ、貴重な映像が残っているが、教育や観光等にその映像を生かす考えはないか。
- (7) 今後の都市基盤整備において、羽村らしさをどう残すのかとの視点は大切である。川崎西公園は導水管が通り、かつての軽便鉄道の出発点であると思われる。ここに軽便鉄道の一部を再生するなど、軽便鉄道の歴史的役割を残してはどうか。
- (8) 羽村の堰とともに、軽便鉄道を多摩川の水の歴史の一つとして、教育や観光に生かせるよう検討する考えはないか。

2. 羽村市自然休暇村の契約存続について

- (1) 平成 25 年 6 月議会で、自然休暇村については、指定管理者と市の連携により、効率的な運営に努め、市民の皆様から愛され、末永く必要とされる保養施設として存続させていきたい旨の市長の発言があったが、その後、判断に変化はないのか。
- (2) 契約を継続するとしたら何カ年の契約を考えているのか。
- (3) 今後、借地契約を存続するのであれば、屋上防水や屋根の塗装の修繕等の改修が必要であると思うが、建物の保全をどのようにしていくのか。
- (4) 平成 25 年度からの指定管理者である「グリーンハウス・太平ビルサービス共同事業体」による運営が 3 年半経過しているが、
 - ①当初の計画は、どのように履行されているのか。
 - ②利用者のアンケートでは、どのような声があったか。
- (5) 毎年日帰りの「モニターツアー」を行っているが、どういう企画で、その結果どのような課題や意見が出され、どう生かされているのか。
- (6) 契約を継続していくのであれば、協定市町村等の拡大や利用者を増やす大胆な取組みが必要ではないか。

7人目

10番

橋本弘山
(60分)

1. 地理情報システム（略称GIS）の運用について

- (1) 統合型GIS導入により、羽村市にとって具体的にどのような利用が可能になってくるのか。
- (2) 統合型GISの他自治体の導入状況は。
- (3) 現在、羽村市において統合型ではなく、単独型の地理情報システムの利用は行っているのか。
- (4) システムを活用するためには職員の育成が必要と考えるがいかがか。
- (5) このシステム導入に要する費用はどのくらいを見込んでいるのか。
- (6) 導入時に補助金の活用は可能か。
- (7) 庁内で検討委員会を立ち上げて調査研究すべきと思うがいかがか。
- (8) 今後の羽村市の導入の方向性はどうか。

2. 国旗・国歌の取り扱いについて

(1) 国旗、市旗の掲揚について

- ① 現在、市役所や小中学校、他の公共施設で国旗の掲揚がされているが、国旗を掲揚する目的は何か。また、掲揚している施設の数はどのくらいあるか。
- ② 国旗を掲揚している施設での掲揚の状況は。（常時掲揚、それ以外）
- ③ 学習指導要領で、小中学生に国旗「日章旗」の意義をどう指導しているのか。
- ④ 中学生の1年間の行事で、国旗を掲げる機会はどれほどあるのか。
- ⑤ 羽村市の市旗のデザインの意味を市民は理解していると考えるか。
- ⑥ 市旗も羽村市のシンボルとしてもっと尊重すべきと考えるがいかがか。
- ⑦ 市旗を掲揚している施設での掲揚の状況は。（常時掲揚、それ以外）

(2) 国歌「君が代」の斉唱について

- ① 学習指導要領で、小中学生に国歌「君が代」をどう理解させ、指導しているのか。
- ② 実際に小中学生が斉唱する機会は1年にどれほどあるのか。

- (3) 東京オリンピック・パラリンピックを4年後に控え、国旗、国歌の扱いはホスト国日本として非常に重要と考えるが市の考えはいかがか。それを踏まえ、東京オリンピック・パラリンピック機運の醸成をどのように図っていくのか。

9月7日

8人目

2番

浜中順
(60分)

1. 市道を安全で、利用しやすく

(1) 道路補修の強化を

- ① 以下、私のところに寄せられた改善の要望の一部を紹介する。

9月7日

- ・道路にかなりの数の水たまりができていて、車が通るたびに歩行者に水がかかる危険にさらされている。(玉川町の中心となっている市道 7081 号線)
- ・目の不自由な人は、白線を頼りに歩いているが、その白線が消えている (JR 線路沿いすぐ東側の市道 1003 号線)
- ・でこぼこで自転車に乗っていても怖く、車の運転も不快。
以上のような実態に対して、どのように考えているのか。

- ②道路の補修すべき現状はどう把握しているか。
- ③補修の優先順位などの進め方は、どのような考えで計画されているのか。
- ④平成 25 年 3 月作成の「羽村市道路維持保全計画」の「4 課題整理」によれば「現在、補修・改修が進んでいない耐用年数を超えた道路が大量に存在しており、老朽化に伴う更新時期を迎え」と現状分析し、補修・改修の必要性を述べている。これに見合った予算の計画が作られているのか。
- ⑤各自治体の総予算に対する道路維持管理費の比率など、周辺市町村と比較できる数値が考えられれば示してほしい。
- ⑥補修が不十分なことにより、これまでに事故はなかったか。
- ⑦補修が思うように進められない要因があるとすれば何か。また、これまでにどのように改善の努力をしてきたのか。

(2)羽村駅西口暫定駅前広場は、迂回路になっていて車の走行がしにくかったり、歩行者も雨の日など、歩道が狭く傘の使用が困難であるなど、使いにくい状態が続いている。暫定的とはいえ歩行者や車の安全を考えての改善はできないのか、また羽村駅西口暫定駅前広場の今後の道路計画を聞きたい。

(3)計画の見直しの中で道路維持管理費が膨張する予想が立った時は、羽村駅西口区画整理事業費を縮小して、現在の道路の維持管理費に充てるべきだと思うがどうか。

2. 3 学期制への移行と教職員の多忙化解消について

(1)中学校の 3 学期制への移行について

- ① 2 学期制検証委員会の最終報告を受けて、各学校で検討することとなった。各学校ではどのような検討がなされ、どのような検討結果だったのか。
- ② 8 月 16 日の教育委員会定例会で各学校からの検討結果の発表があり、教育委員会として

の検討が始まった。各学校での検討結果を集約すると、小学校は2学期制を継続、中学校は3学期制に戻すという意向のようだが、中学校の3学期制移行に関する課題は何か。

- ③ 8月16日の教育委員会定例会では、しっかりと移行の準備をするということで中学校の学期制移行の時期は、平成30年度とする意見が多くの教育委員から出された。しかし、中学校3年生やその保護者から、部活動と進路の問題で支障が多く、3学期制に戻してほしいとの要望の強さが検証委員会のアンケートにも表れていると思われる。各学校では移行年度について保護者の意見は聞いているのか。
- ④ 小学校と中学校が学期制が異なった場合、各学校の検討結果は大きな支障はないということだったが、異論はなかったのか。

(2) 教員が子どもに、より手厚く関わり、授業準備の時間を確保するために、教職員の労働安全衛生の整備が重要である。羽村市の教育は、小中一貫教育や小学校1、2年生の英語活動によって周辺市町村と比べて教職員の負担は大きい。また、地域の土日の行事への教職員の参加件数も多い。そのために教職員は多忙とならざるをえず、そのしわ寄せは子どもたちに及びかねない。その根本的な解決策として、教職員の増員や教育内容の精選が考えられるが、今回は、教職員の健康管理と授業準備などの時間確保について質問する。

- ① 多くの教職員は超過勤務が恒常化しているといわれている。その中で、6月22日の羽村市教育研究会（市教研）へ向けての各分野ごとの事前検討会は、午後4時30分の開会で、勤務時間内には到底終わらない設定で行われた。この事実を教育委員会は把握しているのか。また、どう考えているのか。
- ② 地域の土日の行事への教職員の参加について、参加日数が多く健康などに支障はないのか。また、参加が強制的になっていないか。
- ③ 羽村市に限らず、特に若い教員は、休日の土日に登校して仕事をしないとやりきれない状態が恒常化していると聞いている。各学校では、教職員全員の超勤簿があり超過勤務の実態を把握しているのか。
- ④ 教員の過度に多忙な状態を解消し、授業準備や子どもと関わる時間を確保することは、子どもたちの成長にとって喫緊の課題と思われる。これについてどう考えるか。
- ⑤ 市の職員には労働安全衛生規定があり、それに基づいて職員の健康や安全衛生を守ろうとしている。また、福生市では、数年前から教

9人目	16番	瀧 島 愛 夫 (60分)	<p>職員の労働安全衛生規定が定められ、衛生推進者が置かれ安全と健康管理への配慮が行われている。羽村市も早急に教職員の労働安全衛生規定を作り、健康管理と安全対策をすべきと思うがどうか。</p> <p>1. 羽村市における発達障害支援について（その2）</p> <p>(1) 関係機関（福祉、子ども家庭、教育）の検討会議について</p> <p>① この会議を開催するにあたり、どの部署が中心で運営しているか。</p> <p>② この会議の開催は何回で、構成人数は。またこれまでの会議内容は。</p> <p>③ この会議の主旨は。また会議の方向性は。</p> <p>(2) 羽村市として、近隣市ですでに活動しているような、子ども発達支援センターを早期設置する考えは。</p>	9月7日
10人目	11番	山 崎 陽 一 (60分)	<p>1. 区画整理撤回要求第38弾</p> <p>(1) 区画整理の仮設道路で、樹木の大量伐採、なぜか。</p> <p>① 羽村東小脇、遠江坂周辺をどのような地域と認識しているか。</p> <p>② 工事目的は何か。工事計画は誰が作ったか。</p> <p>③ 住民への工事説明はだれが、いつ、どのようにしたか。</p> <p>④ 遠江坂を通行止めにして工事をしたら、迂回路はあるか。</p> <p>⑤ 遠江坂道路利用の自動車数、自転車数、歩行者数を聞く。</p> <p>⑥ 仮設道路の設置基準は何か。誰が決めるのか。</p> <p>⑦ 仮設道路のための伐採樹木数、種類、樹齢を聞く。</p> <p>⑧ 仮設道路と樹木伐採費及び、工事費の細目を聞く。</p> <p>⑨ 仮に工事を進めたとき、大橋付近の1年後、3年後、5年後はどうなっているか。</p> <p>⑩ 住民から伐採反対の申し入れ書が市長に提出された。要望内容と市長の答えを聞く。</p> <p>⑪ 市長が答弁した区画整理での「若者が住みなくなるまち」とは何か。まちの具体像を聞く。</p> <p>(2) 仮換地指定における、換地先権利者への対応を聞く。</p> <p>① 平成30年度までの移転予定は何棟か。</p> <p>② 仮換地指定による移転先には、居住している権利者がいる。何人か。</p>	9月7日

11 人目

4 番

富 松 崇
(60 分)

- ③換地先（移転先）には反対の権利者もいる。権利者への対応を聞く。
- (3) 地区計画変更案に対する住民意見への対応を聞く。
 - ①説明会の回数、出席者数。
 - ②意見書の数、主な内容。
 - ③住民意見はどのように反映させるか。
 - ④今後の予定はどうか。

1. 地域コミュニティの振興について

(1) 町内会・自治会について

- ①市内の世帯数の推移は。（平成 25 年度から現在まで）
- ②町内会・自治会の加入率の推移は。（平成 25 年度から現在まで）
- ③加入率を上げるために行ってきた施策について、どのように捉えているか。
- ④町内会連合会や各町内会・自治会から、加入促進活動を行っている中で困っていることなど、報告があるか。
- ⑤20 年・30 年後を考えた場合、若い世代の加入促進を図る必要があると思うが、市の考えを伺う。
- ⑥子どもから高齢者まで、一緒に楽しめるイベントを開催するなど、世代間交流をさらに充実させる考えは。

(2) 市民活動団体について

- ①市民活動センターへ寄せられる相談の状況は。
- ②団体同士の情報交換の状況は。
- ③団体同士の連携による新たな取組みの状況は。

(3) 地域コミュニティの振興は、地方創生推進の観点からも重要な施策だと考える。団体の活動内容や世代に応じた支援が必要だと考える。市民活動センターが中心となり、さらに支援の充実を図っていくべきだと思うが、市の考えは。

(4) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けて、市民・各種団体・市内事業者と連携を図り、ホストタウンの登録を行うことも、地域コミュニティの振興につながるのではないかとと思うが、市の考えを伺う。

9 月 7 日

12 人目

7 番

鈴木 拓也
(60 分)

1. 昭島市のごみ処理は、まず立川市との協議が優先されるべきではないか

- (1) 「昭島市のごみ焼却場を延命化できないのか」との意見がある。昭島市からは、どういう説明がなされ、羽村市はどう判断しているか。

9 月 8 日

13 人目

17 番

水 野 義 裕
(60 分)

- (2)「昭島市の焼却場を現在の場所に建て替えできないのか」との意見がある。昭島市からは、どうという説明がなされ、羽村市はどう判断しているか。
- (3)「昭島市は立川市とのごみの共同処理を迫すべきではないか」との意見がある。
 - ①昭島市からはどうという説明がなされているか。
 - ②立川市の新清掃工場の建設計画はどういう状況か。
 - ③「自区内処理」の原則について、羽村市はどういう認識をしているか。
 - ④昭島市は、立川市との共同処理の可能性を第一に追求すべきと考えるが、市の考えはどうか。
- (4)昭島市のごみ問題の、今後のスケジュールなどはどう考えているか。

2. 台風 9 号の被害と対策はどうだったか

- (1)台風 9 号がもたらした、降雨、暴風の状況はどのようなものだったか。
- (2)どうという被害があったか。また、避難所への避難者はあったか。
- (3)対策本部の設置や、パトロール活動などはどのように行われたか。十分な活動ができたか。
- (4)信号「あさひ公園」付近など、市内に 17 カ所あるという「警戒区域」の状況はどうだったか。この間取り組んできた対策の効果はあったか。
- (5)大きな公園付近などでは、より深刻な被害も想定して、集水枡の増設などが必要ではないか。

3. イオンタウンはどうなっているか

- (1)イオンタウンの出店に向けての手続きはどこまで進んでいるのか。
- (2)予定通り、今年末に建設工事開始、来年末に開店というスケジュールで進んでいるのか。
- (3)交通安全・渋滞対策はどう進んできたのか。新しく決まったことは何か。
- (4)市内事業者との「共存共栄事業」の検討は進んでいるか。新しく決まったことは何か。

1. 公共施設等総合管理計画について

- (1)管理計画の下位計画について
 - ①すでに策定済の 7 つの下位計画は計画期間が 8 年から 40 年、開始・終了時期もばらばらだ。下位計画の見直しの時点で管理計画との整合をとるべきではないか。
 - ②耐震改修促進計画は昨年度までの計画となっているが、進捗状況はどうか。また、今後はどう考えているか。

9 月 8 日

- (2) インフラ施設の費用について
- ① 羽村駅西口土地区画整理事業の費用は、道路・上水道・下水道・公園等でそれぞれいくらかを見込んでいるか。
 - ② 他市と比較して、「路面の劣化が進んでいる」との声が届いているが、実状をどのように把握しているか。また、今後どのように対応していくか。
 - ③ 観光振興を図るなら、それに着目したインフラ整備を考えるべきではないか。
- (3) 計画の推進について
- ① 管理計画の進行を管理する部署はどこか。
 - ② 管理計画は、「実状からかい離したものにならないように必要に応じて改定する」とあるが、かい離したという判断の基準とはどんなものか。
- (4) 財政面について
- ① 平成 15 年度、20 年度、25 年度、28 年度の、年齢層別（20～30 歳代、40～50 歳代、60 歳代以上）納税者人口と納税額は。
 - ② 管理計画の 30 年間について、それらは今後 10 年単位でどう推移すると予測しているか。
 - ③ 管理計画は、羽村駅西口土地区画整理事業と期間が重なるが、その間の財政についてどのように見通しているか。

2. 学期制見直しなどについて

- (1) 学期制の見直しは怎么样了か。
- ① 結論は出たか。
 - ② 市民へはどのように周知するか。
- (2) 不登校について
- ① ここ 5 年間の不登校の児童生徒数は。
 - ② 昨年度の不登校の原因となったのはどんなもので、原因ごとの人数は。
 - ③ それらについて、どのように対応したか。
- (3) スマートフォンのゲームなどについて
- ① 新しいゲームが発売され、さまざまな問題点が指摘されているが、学校への侵入などは起きていないか。
 - ② このゲームが子どもたちにどのような影響を与えるかについて、考えているか。また、それにどう対応していくか。
 - ③ ゲームを含め、進歩するスマートフォンに教育現場はどう対応していくか。

14 人目

18 番

門 間 淑 子
(60 分)

1. 昭島市の可燃ごみ受け入れ問題について

- (1) 西多摩衛生組合の調査・検討について
- ① 本年 5 月 30 日、西多摩衛生組合から西多摩衛生組合議会議員に対し、「可燃ごみの処理量増加に伴う技術的措置対応に関する検討結果」の

9 月 8 日

15 人目	3 番	印 南 修 太 (60 分)	<p>説明があったが、羽村市議会への説明はなされなかった。青梅市、福生市、瑞穂町議会では、それぞれどのように説明されたか。</p> <p>②質疑応答の過程で、西多摩衛生組合からは「1年ぐらいで意見集約ができれば良い」との発言があった。羽村市は、1年で結論を出す予定か。</p> <p>③分賦金などの財政面への影響に関する調査結果は、いつ出されるのか。</p> <p>④昭島市からの加入要請に関わる事項は、議員全員に説明されるべきではないか。</p> <p>(2) 国営昭和記念公園の西側に立川市の新清掃工場が建設されるが、昭島・立川両市が共同処理とはならなかった理由を、羽村市は把握しているか。</p> <p>(3) 昭島市に対し、生ごみバイオマス化を逆提案してはどうか。</p>	9 月 8 日
16 人目	15 番	濱 中 俊 男 (55 分)	<p>1. 羽村市の教育について</p> <p>(1) アクティブ・ラーニング (AL) の考え方が広まることで、子ども達にどのような力を身につけてほしいと考えているか。</p> <p>(2) AL が教育現場に広まるうえでの課題は何か。</p> <p>(3) 新たに加わるプログラミング教育は、羽村市ではどのように展開していく考えか。(例えばタブレットの導入予定など)</p> <p>2. 観光によるまちづくりについて</p> <p>(1) 観光協会の法人化や観光案内所の通年開所などの取組みは、どのようになったか。</p> <p>(2) 羽村駅西口から観光案内所までの歩道を、例えばベビーカーでも通れるように新たに整備できないか。</p> <p>(3) 踊子草公園のトイレを新設できないか。</p> <p>(4) 2020 東京オリンピック・パラリンピックを前に、広域観光事業をより一層進め、国内外に羽村の魅力を情報発信すべきではないか。</p>	9 月 8 日
16 人目	15 番	濱 中 俊 男 (55 分)	<p>1. 自然災害から市民を守るために</p> <p>(1) 洪水・土砂災害について</p> <p>①洪水・土砂災害ハザードマップの活用状況は。</p> <p>②水防訓練等での住民への理解と協力についてはどう考えているか。</p> <p>(2) 雨水対策につき伺う</p> <p>①羽村市の、雨水管整備の基準は。</p> <p>②羽村市の、雨水管整備状況は。</p> <p>③日常の管理はどのように行っているか。</p> <p>(3) 防災行政無線につき、市民からどのような声が届いているか。</p>	9 月 8 日

17 人目

13 番

馳 平 耕 三
(60 分)

- (4) 台風 9 号による被害について
- ①羽村市での雨量は。
 - ②被害状況は。
 - ③土砂災害警戒警報の発令された時間は。理事者・職員の対応は。
 - ④市民からの電話等の件数と内容。その対応は。
 - ⑤今回の事例から対策の再考は考えているか。

2. ペイオフと資金運用に関して

- (1) 指定金融機関等の検査については、どのように行っているか
- (2) 公金の運用について
- ①歳計現金の運用状況は、どのような判断のもと大口定期にしているのか。
 - ②基金の運用状況はどうか。債券は、具体的にどのような種類のものか。
- (3) 今後の課題と対策についてはどのように捉えているか。

1. 生涯学習基本計画実施計画について問う

- (1) 少年期（6～15 歳）の確かな学力の育成の施策として、2 学期制を生かした教育課程の実施、授業改善推進プランの作成、全小学校への学習サポーターの配置が挙げられているが、これらの施策が学力の育成につながると考える根拠は何か。
- (2) 校庭芝生化の取組みが重要施策として挙げられているが、芝生化をどう環境教育に結び付ける考えか。
- (3) 親学（家庭教育講座）において、食育をテーマとした取組みを図るとあるが、どのような内容を計画し、何人ぐらいの親の参加を目標としているか。
- (4) 稲作体験の実施について、5 年生を対象とした稲作体験が内容・今後の方針として挙げられているが、本年実施した苗取り、田植えの 5 年生の参加率は何%だったか。
- (5) 部活動の推進の中で、外部指導員の配置が計画されているが、今後、何人ぐらいの指導員を増やす考えか。また、外部指導員の待遇は変わるか。
- (6) 計画では、平成 27 年度から 30 年度まで、教育相談の実施、教育相談員、スクールカウンセラーによる教育相談の実施、スクールソーシャルワーカーの配置など、回数や人員はあまり変わらないが、より予算をかけて充実させるべきではないか。また、特色ある学校づくり交付金を、各学校の判断でこうした事業に充てることは可能か。
- (7) 小学校 1 年生からの英語教育の実施は、どうい

9 月 8 日

う力を養おうとするものか。

(8) ドッジボール大会の参加チームを増やす目標が挙げられているが、なぜ、参加チームが減っていると分析しているか。

(9) オリンピック・パラリンピックに関する事業の推進は、どのように子どもたちに関心を持ってもらおうと考えているか。

(10) 子ども・若者支援地域協議会は、いつごろ設置しようと考えているか。

2. 自転車の安全と利用促進を図る自転車条例の制定を目指せ

(1) 市内の自転車の保有台数を調査したことはあるか。

(2) 市内の都道、市道のうち、自転車レーン（ブルーゾーン）等が整備されているのは、それぞれ何%か。また、今後の具体的な整備計画は。

(3) 通勤レンタサイクル事業を実施すべきではないか。

(4) 自転車の安全利用と利用促進を図るPR活動を積極的に図り、啓発すべきではないか。

(5) 自転車施策の実施にあたり、地元関係者、市民団体、道路管理者、公安委員会等の連携が不可欠だと考えるが、関係者による検討会を設置する考えはないか。

(6) いくつかの自治体で自転車に関する条例が制定されているが、これまで、羽村市はそのような条例の内容やその成果について検討したことはあるか。